

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-039817

(43)Date of publication of application : 13.02.2001

(51)Int.Cl.

A61K 7/00
A61K 7/021
A61K 7/025
A61K 7/027
A61K 7/032
A61K 7/06
A61K 7/46

(21)Application number : 11-213662

(71)Applicant : SHISEIDO CO LTD

(22)Date of filing : 28.07.1999

(72)Inventor : YOSHIDA KUNIHIKO
MIYAHARA REIJI
NASU AKIO

(54) TRANSPARENT COSMETIC

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a transparent cosmetic capable of solving the problems such as heaviness in extension at the time of coating, insufficiency of finish after the coating, reduction of transparency with the lapse of time, and insufficiency of moldability to a stick, and having extremely improved transparency and usability by including a specific fatty acid ester of dextrin.

SOLUTION: This transparent cosmetic comprising (A) 12-hydroxystearic acid, and (B) an oily component contains (C) a fatty acid ester of dextrin of the formula A-(-O-CO-R)_n (A is a residue obtained by removing n hydroxy groups from dextrin; R is a 3-30C alkyl; n is an integer of ≥ 1), (preferably, one or more kinds selected from dextrin palmitate, dextrin 2-ethylhexanoate and dextrin myristate and/or palmitate). The component B preferably has 1.44-1.54 refractive index, and a liquid lanolin, a liquid paraffin or the like is preferably used as the component B.

(51)Int.Cl.⁷
A 61 K 7/00

識別記号

F I
A 61 K 7/00テ-マコ-ト(参考)
C 4 C 0 8 3
F
J
K

7/021

7/021

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 9 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号

特願平11-213662

(22)出願日

平成11年7月28日(1999.7.28)

(71)出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(72)発明者 吉田 邦彦

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株
式会社資生堂第一リサーチセンター内

(72)発明者 宮原 令二

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株
式会社資生堂第一リサーチセンター内

(74)代理人 100094570

弁理士 ▲高▼野 俊彦

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 透明化粧料

(57)【要約】

【課題】 塗布時にのびが重い、塗布時にポロポロする
ような性状を示し塗布後の仕上がりが十分でない、経時
で透明性が低下する、スティック成形性に劣る等と言つ
た従来の透明化粧料の問題点を解決した透明化粧料を提
供すること。

【解決手段】 1 2-ヒドロキシステアリン酸と油分と
を含有する透明化粧料において、下記一般式(1)で表
されるデキストリン脂肪酸エステルを含有するゲル組成
物であることを特徴とする透明化粧料。

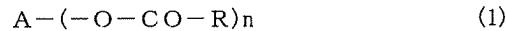
A-(-O-CO-R)_n (1)

[式中、Aはデキストリンからn個の水酸基を除いた残
基。Rは炭素数3~30の直鎖または分岐のアルキル
基。nは1以上の整数を表す。]

【特許請求の範囲】

【請求項1】 12-ヒドロキシステアリン酸と油分とを含有する透明化粧料において、下記一般式(1)で表されるデキストリン脂肪酸エステルを含有するゲル組成物であることを特徴とする透明化粧料。

【化1】



[式中、Aはデキストリンからn個の水酸基を除いた残基。Rは炭素数3～30の直鎖または分岐のアルキル基。nは1以上の整数を表す。]

【請求項2】 前記デキストリン脂肪酸エステルが、パルミチン酸デキストリン、2-エチルヘキサン酸デキストリン及びミリスチン酸/パルミチン酸デキストリンからなる群から選ばれた一種または二種以上のデキストリン脂肪酸エステルであることを特徴とする請求項1記載の透明化粧料。

【請求項3】 前記油分の屈折率が1.44～1.54であることを特徴とする請求項1または2記載の透明化粧料。

【請求項4】 前記油分が、液状ラノリン、流動パラフィン、モノ水素添加ロジンイソステアリン酸グリセリル、メチルフェニルポリシロキサン、ホホバ油、マカデミアナッツ油、オクタン酸セチル、パラメトキシケイ皮酸2-エチルヘキシル、ヒマシ油、ジイソステアリル酸グリセリル、トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル、スクワラン、リンゴ酸ジイソステアリル、トリイソステアリル酸グリセリルからなる群から選ばれた一種または二種以上の油分であることを特徴とする請求項3記載の透明化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は透明化粧料に関する。さらに詳しくは、12-ヒドロキシステアリン酸と油分とを含有し、透明性と使用性が格段に改善された透明化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】油性の透明化粧料は、主に、外観の美しさ、塗布したときに透明感のある仕上り等の利点を有するため、様々な基剤が検討されているが、中でも、12-ヒドロキシステアリン酸を配合した基剤については特に多くの検討がなされている。

【0003】例えば、特開昭63-119405号公報には、12-ヒドロキシステアリン酸とロジンの多価アルコールエステルと多価アルコール側鎖脂肪酸部分エステルもしくは多価アルコール不飽和脂肪酸部分エステルを含有する透明化粧料が開示されている。また、特開平1-163111号公報には、12-ヒドロキシステアリン酸と油分からなる屈折率1.45～1.54の透明性基剤を用いた化粧料が開示されている。さらに、特開平2-264707号公報には、12-ヒドロキシステ

アリン酸と重質流動パラフィンと液状油性成分からなる透明固形化粧料が開示され、特開平4-91010号公報には、12-ヒドロキシステアリン酸と水酸基価120以下の透明液状油性成分とメチルフェニルポリシロキサンを含有する透明固形化粧料が開示されている。

【0004】一方、デキストリン脂肪酸エステルを配合した透明化粧料としては、特開平9-235210号公報に、塗布時のつやを改良する観点から、デキストリン脂肪酸エステルと重質流動パラフィンと液状油性成分とを配合した固形化粧料が開示されている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記の如く、12-ヒドロキシステアリン酸若しくはデキストリン脂肪酸エステルを配合した透明化粧料は広く知られているが、これらの透明化粧料は、塗布時にのびが重い、塗布時にポロポロするような性状を示し塗布後の仕上がりが十分でない、経時で透明性が低下するなどの問題点を有しており、これらの問題点は、透明成分の12-ヒドロキシステアリン酸及びデキストリン脂肪酸エステルに本質的に由来する解決困難な問題点と考えられていた。さらに、デキストリン脂肪酸エステル配合の透明化粧料においては、ステイック成形性が十分でなく、これを補うためにワックスなどの固化剤を添加すると透明性が低下してしまうという問題点があった。

【0006】本発明者らは、上述の観点に鑑み上記問題点を改良した透明化粧料を開発すべく鋭意研究を重ねた結果、驚くべきことに、上記問題点の元凶とみなされている透明成分の12-ヒドロキシステアリン酸及びデキストリン脂肪酸エステルを組み合わせて油分と配合すると、上記問題点が見事に解消された透明化粧料が得られるを見出し、本発明を完成するに至った。

【0007】本発明の透明化粧料は、塗布時にのびが重い、塗布時にポロポロするような性状を示し塗布後の仕上がりが十分でない、経時で透明性が低下する、ステイック成形性が十分でない等と言った従来の透明化粧料の問題点を解決することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】すなわち、本発明は、12-ヒドロキシステアリン酸と油分とを含有する透明化粧料において、下記一般式(1)で表されるデキストリン脂肪酸エステルを含有するゲル組成物であることを特徴とする透明化粧料を提供するものである。

【化2】



[式中、Aはデキストリンからn個の水酸基を除いた残基。Rは炭素数3～30の直鎖または分岐のアルキル基。nは1以上の整数を表す。]

【0009】また、本発明は、前記デキストリン脂肪酸エステルが、パルミチン酸デキストリン、2-エチルヘキサン酸デキストリン及びミリスチン酸/パルミチン酸

デキストリンからなる群から選ばれた一種または二種以上のデキストリン脂肪酸エステルであることを特徴とする前記の透明化粧料を提供するものである。

【0010】さらに、本発明は、前記油分の屈折率が1.44～1.54であることを特徴とする前記の透明化粧料を提供するものである。

【0011】また、本発明は、前記油分が、液状ラノリン、流動パラフィン、モノ水素添加ロジンイソステアリン酸グリセリル、メチルフェニルポリシロキサン、ホホバ油、マカデミアナッツ油、オクタン酸セチル、パラメトキシケイ皮酸2-エチルヘキシル、ヒマシ油、ジイソステアリル酸グリセリル、トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル、スクワラン、リンゴ酸ジイソステアリル、トリイソステアリル酸グリセリルからなる群から選ばれた一種または二種以上の油分であることを特徴とする前記の透明化粧料を提供するものである。

【0012】

【発明の実施の態様】以下、本発明の構成について詳述する。

【0013】本発明に用いる12-ヒドロキシステアリン酸は、リシノール酸に水素添加したもので12位の炭素に不斉水酸基を有する飽和脂肪酸であり、ヒマシ油を水素添加して得られる水添ヒマシ油を加水分解することにより製造される。また、ヒマシ油を加水分解することにより得られるヒマシ油脂肪酸に水素添加することによっても得られる。本発明においては市販品を利用出来る。

【0014】12-ヒドロキシステアリン酸の配合量は、目的とする透明化粧料の用途により適宜決定されるが、通常、透明化粧料全量に対して0.1～50重量%程度が好ましく、さらに好ましくは0.5～30重量%である。これは0.1重量%未満では、極端に低粘度となって製品としての使用に耐えないためであり、50重量%を越えると透明性に劣るためである。

【0015】本発明に用いるデキストリン脂肪酸エステルは、デキストリンと炭素数3～30の直鎖又は分岐のアルキル基を有する脂肪酸とのエステルであり、デキストリンにピリジンを塩基性触媒に用いて加熱下に脂肪酸クロライドを反応させることにより得られる。一般式

(1)において、Aの分子量は、好ましくは1000～300000であり、さらに好ましくは1000～10000である。Rの具体例としては、プロピル基、ブチル基、ペンチル基、ヘキシル基、ヘプチル基、オクチル基、ノニル基、デシル基、ウンデシル基、ドデシル基、トリデシル基、ミリスチル基、ペンタデシル基、ヘキサデシル基、オクタデシル基などの直鎖アルキル基、2-エチルヘキシル基、2-ヘキシルデシル基、2-デシルミリスチル基、イソステアリル基、2,7-ジメチルヘキサデシル基などの分岐アルキル基が挙げられる。

【0016】一般式(1)のデキストリン脂肪酸エステ

ルの具体例としては、オクタン酸デキストリン、デカン酸デキストリン、ラウリン酸デキストリン、ミリスチン酸デキストリン、ステアリン酸デキストリン、ベヘニン酸デキストリン、ヤシ油脂肪酸デキストリン、パルミチン酸デキストリン、2-エチルヘキサン酸デキストリン、ミリスチン酸/パルミチン酸デキストリン等が挙げられる。本発明の効果の点で特に好ましくは、パルミチン酸デキストリン、2-エチルヘキサン酸デキストリン、ミリスチン酸/パルミチン酸デキストリンである。

【0017】デキストリン脂肪酸エステルの配合量は、透明化粧料全量に対して、0.01～30重量%の範囲で配合され、好ましくは0.01～10重量%、さらに好ましくは0.1～1重量%である。0.01重量%未満では本発明の効果を発揮できない場合があり、また、30重量%より多くなると、系への溶解性が極端に悪くなる場合がある。

【0018】本発明に用いる油分は12-ヒドロキシステアリン酸及びデキストリン脂肪酸エステルと共に配合されて透明化粧料を得られるものであれば特に限定されず、通常、化粧料に配合される各種の油分を用いることが出来る。以下に具体例を例示する。

【0019】液体油脂としては、例えば、アボガド油、ツバキ油、タートル油、マカデミアナッツ油、トウモロコシ油、ミンク油、オリーブ油、ナタネ油、卵黄油、ゴマ油、パーシック油、小麦胚芽油、サザンカ油、ヒマシ油、アマニ油、サフラワー油、綿実油、エノ油、大豆油、落花生油、茶実油、カヤ油、コメヌカ油、シナギリ油、日本キリ油、ホホバ油、胚芽油、トリグリセリン、トリオクタン酸グリセリン、トリイソパルミチン酸グリセリン等が挙げられる。

【0020】固体油脂としては、例えば、カカオ脂、ヤシ油、馬脂、硬化ヤシ油、パーム油、牛脂、羊脂、硬化牛脂、パーム核油、豚脂、牛骨脂、モクロウ核油、硬化油、牛脚脂、モクロウ、硬化ヒマシ油等が挙げられる。

【0021】ロウ類としては、例えば、ミツロウ、カンデリラロウ、綿ロウ、カルナウバロウ、ベイベリーロウ、イボタロウ、鯨ロウ、モンタンロウ、ヌカラウ、ラノリン、カポックロウ、酢酸ラノリン、液状ラノリン、サトウキビロウ、ラノリン脂肪酸イソプロピル、ラウリン酸ヘキシル、還元ラノリン、ジョジョバロウ、硬質ラノリン、セラックロウ、POEラノリンアルコールエーテル、POEラノリンアルコールアセテート、POEコレステロールエーテル、ラノリン脂肪酸ポリエチレングリコール、POE水素添加ラノリンアルコールエーテル等が挙げられる。

【0022】炭化水素油としては、例えば、流動パラフィン、オゾケライト、スクワラン、ブリストン、パラフィン、セレン、スクワレン、ワセリン、マイクロクリスタリンワックス等が挙げられる。

【0023】高級脂肪酸としては、例えば、ラウリン

酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘン(ベヘニン)酸、オレイン酸、ウンデシレン酸、トル酸、イソステアリン酸、リノール酸、リノレイン酸、エイコサペンタエン酸(EPA)、ドコサヘキサエン酸(DHA)等が挙げられる。

【0024】高級アルコールとしては、例えば、ラウリルアルコール、セチルアルコール、ステアリルアルコール、ベヘニルアルコール、ミリスチルアルコール、オレイルアルコール、セトステアリルアルコール等の直鎖アルコール、モノステアリルグリセリンエーテル(パチルアルコール)、2-デシルテトラデシノール、ラノリンアルコール、コレステロール、フィトステロール、ヘキシルドデカノール、イソステアリルアルコール、オクチルドデカノール等の分枝鎖アルコール等があげられる。

【0025】合成エステル油としては、ミリスチン酸イソプロピル、オクタン酸セチル、ミリスチン酸オクチルドデシル、パルミチン酸イソプロピル、ステアリン酸ブチル、ラウリン酸ヘキシル、ミリスチン酸ミリスチル、オレイン酸デシル、ジメチルオクタン酸ヘキシルデシル、乳酸セチル、乳酸ミリスチル、酢酸ラノリン、ステアリン酸イソセチル、イソステアリン酸イソセチル、12-ヒドロキシステアリン酸コレステリル、ジ-2-エチルヘキサン酸エチレングリコール、ジペンタエリスリトール脂肪酸エステル、モノイソステアリン酸N-アルキルグリコール、ジカプリン酸ネオペンチルグリコール、リンゴ酸ジイソステアリル、ジ-2-ヘプチルウンデカン酸グリセリン、トリ-2-エチルヘキサン酸トリメチロールプロパン、トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン、テトラ-2-エチルヘキサン酸ペンタエリスリトール、トリ-2-エチルヘキサン酸グリセリン、トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン、セチル-2-エチルヘキサノエート、2-エチルヘキシルパルミテート、トリミリスチン酸グリセリン、トリ-2-ヘプチルウンデカン酸グリセライド、ヒマシ油脂肪酸メチルエステル、オレイン酸オレイル、アセトグリセライド、パルミチン酸2-ヘプチルウンデシル、アジピン酸ジイソプロチル、N-ラウロイル-L-グルタミン酸-2-オクチルドデシルエステル、アジピン酸ジ-2-ヘプチルウンデシル、エチルラウレート、セバシン酸ジ-2-エチルヘキシル、ミリスチン酸2-ヘキシルデシル、パルミチン酸2-ヘキシルデシル、アジピン酸2-ヘキシルデシル、セバシン酸ジイソプロピル、コハク酸2-エチルヘキシル、酢酸エチル、酢酸ブチル、クエン酸トリエチル等が挙げられる。

【0026】シリコーン油としては、例えば、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、メチルハイドロジェンポリシロキサン等の鎖状ポリシロキサン、デカメチルポリシロキサン、ドデカメチルポリシロキサン、テトラメチルテトラハイドロジェンポリシロキサンなどの環状ポリシロキサン等が挙げられる。

【0027】油分は、上記の一種または任意の二種以上

を用いることが出来るが、本発明の効果の点から屈折率が1.4~1.6の油分及び混合油分が好ましく、さらに好ましくは屈折率が1.44~1.54の油分及び混合油分である。具体的には、液状ラノリン、流動パラフィン、モノ水素添加ロジンイソステアリン酸グリセリル、メチルフェニルポリシロキサン、ホホバ油、マカデミアナツツ油、オクタン酸セチル、パラメトキシケイ皮酸2-エチルヘキシル、ヒマシ油、ジイソステアリル酸グリセリル、トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル、スクワラン、リンゴ酸ジイソステアリル、トリイソステアリル酸グリセリルが好ましい。特に好ましくは、メチルフェニルポリシロキサンである。

【0028】なお、本発明において屈折率とは、ガラス板上に油分を2gとり、金ベラを用いて均一なスラリー状になるまで練り合わせたものを精密アッペ屈折計(ATAGO社製 タイプ:3T)を用いて20°Cで測定した値である。

【0029】油分の配合量は特に制限されないが、通常、20~99.89重量%、好ましくは50~99.5重量%の範囲で、目的とする透明化粧料に応じて適宜決定される。

【0030】本発明に言う透明化粧料とは、光路長10mmのセルに充填し冷却固化させたものを25°Cにて1時間放置した後、分光光度計で900nmの光の透過率が少なくとも50%以上のものである。

【0031】本発明の透明化粧料は、上記必須成分の他に本発明の効果を阻害しない範囲内において、必要に応じて、保湿剤、防腐剤、酸化防止剤、紫外線吸収剤、高分子、界面活性剤、色素、顔料、粉末、薬剤、アルコール、溶剤、香料などを適宜配合し、目的とする製品形態に応じて常法により製造することが出来る。

【0032】本発明の透明化粧料の剤形はゲル組成物であり、その製品形態としては、例えば、口紅、リップグロス、リップクリーム、アイシャドー等のメイキャップ化粧料、ヘアスティック、ポマード等の毛髪化粧料等を挙げることができる。本発明の効果の点からは、スティック状透明固形化粧料として利用されることが好ましい。

【0033】本発明の透明化粧料は、上記の構成をとることにより、塗布時にのびが重い、塗布時にポロポロするような性状を示し塗布後の仕上がりが十分でない、経時に透明性が低下するという問題点を解消できると同時に、極めて高い透明性を有するゲル組成物である。必須構成成分を単独に配合した場合に生じる上記問題点を解消できる理由については不明であるが、極めて高い透明性を有するのは、以下のようない理由によるものと考えられる。すなわち、一般に、油分中のゲル化剤の分子配列が不規則であればあるほど、また、結晶が微細であるほどゲルの透明性は増すと考えられるが、デキストリン脂肪酸エステルは、12-ヒドロキシステアリン酸と油

分とで構成されるゲル中で上記のような状態を促進し、高い透明性につながっていると考えられる。

【0034】

【実施例】次に実施例を挙げて本発明をさらに具体的に説明する。本発明は以下の実施例によってなんら限定されるものでない。配合量は特に記載がない限り重量%である。

【0035】実施例及び比較例の透明化粧料を製造して、透明性、25°C一ヶ月放置後の透明性を、下記の透明性試験により評価した。また、塗布時ののび、塗布後の仕上がりについては、下記の使用性試験により評価した。

【0036】[製造方法]油分に一般式(1)で表されるデキストリン脂肪酸エステルを加え、95°Cで加熱して溶解させた後、1,2-ヒドロキシステアリン酸、酸化防止剤、香料、着色剤等を加えて、85~95°Cに加熱し、良く攪拌して均一にした。これを所定の金型または容器に流し込み、冷却固化して、透明化粧料を製造し、評価試料とした。

【0037】[透明性試験]光路長10mmのセルに試料を流し込み、冷却固化させたものを、25°Cに一時間及び一ヶ月放置した後、分光光度計で、900nmでの透過率を測定した。この透過率から透明性を「表1」に示す評価基準で判定した。

【表1】

透過率	判定
50%以上	◎
25%以上50%未満	○
1%以上25%未満	△
1%未満	×

【0038】[使用性試験]専門パネル20名による官能評価を行った。塗布時ののびのスコアは、軽い(5点)、やや軽い(4点)、普通(3点)、やや重い(2点)、重い(1点)の5段階で評価し、仕上がりは、良い(5点)、やや良い(4点)、普通(3点)、やや悪い(2点)、悪い(1点)の5段階で評価し、20名のスコアの平均値を求め、「表2」に示す評価基準で判定した。

【表2】

スコア平均値	判定
4.0~5.0	◎
3.0~4.0	○
2.0~3.0	△
1.0~2.0	×

【0039】「実施例1、2、3 透明口紅」「表3」に示す处方の実施例1、2、3の透明口紅は、従来技術の比較例1、2に比べて、透明性が高く、経時での透明性、塗布時ののび、塗布後の仕上がりにおいて、格段に優れるものであった。さらに、スティック成形性に優れるものであった。

【表3】

配合成分	実施例 1	実施例 2	実施例 3	比較例 1
パルミチン酸デキストリン	0. 1	—	—	—
2-エチルヘキサン酸デキストリン	—	0. 1	—	—
ミリスチン酸/パルミチン酸デキストリン	—	—	0. 1	—
12-ヒドロキシステアリン酸	10	10	10	10
メチルフェニルポリシロキサン	30	30	30	30
液状ラノリン	20	20	20	20
モノ水素添加ロジンジイソステアリン酸グリセリル	36. 8	36. 8	36. 8	39. 8
赤色223号	0. 1	0. 1	0. 1	0. 1
香料	0. 1	0. 1	0. 1	0. 1
透明性	◎	◎	◎	○
透明性(1ヶ月後)	◎	◎	◎	△
塗布時ののび	○	○	○	△
塗布後の仕上がり	◎	◎	◎	×

【表4】

配合成分	比較例 2
パルミチン酸デキストリン	8
マイクロクリスタリンワックス	10
流動パラフィン	40
重質流動イソパラフィン	41. 8
赤色223号	0. 1
香料	0. 1
透明性	△
透明性(1ヶ月後)	×
塗布時ののび	△
塗布後の仕上がり	△

【0040】「実施例4、5、6、7 透明口紅」〔表5〕に示す処方の透明口紅は、透明性が高く、経時での透明性、塗布時ののび、塗布後の仕上がりに極めて優れるものであった。さらに、スティック成形性に優れるものであった。

【表5】

配合成分	実施例4	実施例5	実施例6	実施例7
パルミチン酸デキストリン	0. 1	0. 1	1	0. 1
12-ヒドロキシステアリン酸	10	10	10	10
メチルフェニルポリシロキサン	20	30	30	20
液状ラノリン	20	14. 7	20	—
モノ水素添加ロジンジイソステアリン酸グリセリル	9. 7	—	38. 8	10
ジイソステアリン酸グリセリル	—	15	—	—
流動パラフィン	5	15	—	30
マカデミアナッツオイル	5	—	—	—
トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル	10	—	—	24. 7
スクワラン	10	—	—	—
リンゴ酸ジイソステアリル	5	10	—	—
トリイソステアリン酸グリセリル	5	—	—	—
パラメトキシケイ皮酸2-エチルヘキシル	—	5	—	5
だいだい色201号	0. 05	—	—	0. 1
赤色218号	0. 05	0. 05	—	—
赤色223号	—	0. 05	0. 1	—
香料	0. 1	0. 1	0. 1	0. 1
透明性	◎	◎	◎	◎
透明性(1ヶ月後)	◎	◎	◎	◎
塗布時ののび	○	○	○	○
塗布後の仕上がり	◎	◎	◎	◎

【0041】「実施例8 透明リップグロス」「表6」に示す処方の透明リップグロスは、透明性が高く、経時の透明性、塗布時ののび、塗布後の仕上がりに極めて優れるものであった。さらに、スティック成形性に優れるものであった。

【表6】

(配合成分)	(配合量)
パルミチン酸デキストリン	0. 1
12-ヒドロキシステアリン酸	9
メチルフェニルポリシロキサン	20
液状ラノリン	30
モノ水素添加ロジンジイソステアリン酸グリセリル	30. 8
流動パラフィン	10
香料	0. 1

【0042】「実施例9 透明リップクリーム」「表7」に示す処方の透明リップクリームは、透明性が高く、経時の透明性、塗布時ののび、塗布後の仕上がりに極めて優れるものであった。さらに、スティック成形性に優れるものであった。

【表7】

(配合成分)	(配合量)
パルミチン酸デキストリン	0. 1
12-ヒドロキシステアリン酸	10
メチルフェニルシリコーン	20
液状ラノリン	10
モノ水素添加ロジンジイソステアリン酸グリセリル	39. 2
流動パラフィン	20
メントール	0. 5
ビタミンE	0. 1
香料	0. 1

【0043】「実施例10 アイシャドー」「表8」に示す処方の透明アイシャドーは、透明性が高く、経時の透明性、塗布時ののび、塗布後の仕上がりに極めて優れるものであった。さらに、スティック成形性に優れるものであった。

【表8】

(配合成分)	(配合量)
パルミチン酸デキストリン	0.5
12-ヒドロキシステアリン酸	5
メチルフェニルシリコーン	20
液状ラノリン	20
トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル	34
流動パラフィン	20
マイカ	0.2
雲母チタン	0.1
ベンガラ	0.1
香料	0.1

【0044】「実施例11 透明ヘアスティック」「表9」に示す処方の透明ヘアスティックは、透明性が高く、経時での透明性、塗布時の及び、塗布後の仕上がりに極めて優れるものであった。さらに、スティック成形性に優れるものであった。

【表9】

(配合成分)	(配合量)
パルミチン酸デキストリン	0.5
12-ヒドロキシステアリン酸	10
メチルフェニルシリコーン	35
液状ラノリン	20
モノ水素添加ロジンジイソステアリン酸グリセリル	10
流動パラフィン	19.4
トリイソステアリン酸グリセリル	5
香料	0.1

【0045】「実施例12 透明練り香水」「表10」に示す処方の透明練り香水は、透明性が高く、経時での透明性、塗布時の及び、塗布後の仕上がりに極めて優れるものであった。さらに、スティック成形性に優れるものであった。

【表10】

(配合成分)	(配合量)
パルミチン酸デキストリン	0.1
12-ヒドロキシステアリン酸	11
メチルフェニルシリコーン	20
モノ水素添加ロジンジイソステアリン酸グリセリル	10
流動パラフィン	30
トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル	20.9
パラメトキシケイ皮酸2-エチルヘキシル	5
香料	3

【0046】「実施例13 ラメ剤入り透明メーキャップスティック」「表11」に示す処方のラメ剤入り透明メーキャップスティックは、透明性が高く、経時での透明性、塗布時の及び、塗布後の仕上がりに極めて優れるものであった。また、ラメ剤はポリエチレンテレフタレート・ポリオレフィン積層フィルム粉末（商品名：イリデッセントグリッター、ダイヤケムコ株式会社）を使用したが、基剤が透明であることから、ラメ剤がよく見えて美的外観に優れるものであった。さらに、スティック成形性にも優れるものであった。

【表11】

(配合成分)	(配合量)
パルミチン酸デキストリン	0.1
12-ヒドロキシステアリン酸	11
液状ラノリン	5
メチルフェニルシリコーン	20
モノ水素添加ロジンジイソステアリン酸グリセリル	10
流動パラフィン	30
トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル	15.9
パラメトキシケイ皮酸2-エチルヘキシル	5
ラメ剤（多層状板状ポリマー粉末）	3

【0047】

【発明の効果】本発明によれば、塗布時にのびが重い、塗布後の仕上がりが十分でない、経時で透明性が低下する、スティック成形性に劣る等と言った12-ヒドロキシステアリン酸若しくはデキストリン脂肪酸エステル特有の問題点を解決した透明化粧料を提供することが出来る。

フロントページの続き

(51) Int. Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード' (参考)
A 6 1 K	7/025	A 6 1 K	7/025
	7/027		7/027
	7/032		7/032
	7/06		7/06
	7/46		7/46
			A

(72) 発明者 那須 昭夫	F ターム(参考) 4C083 AA121 AA122 AB232 AB432
神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株	AC021 AC022 AC301 AC302
式会社資生堂第一リサーチセンター内	AC341 AC342 AC351 AC371
	AC372 AC421 AC422 AC842
	AD022 AD092 AD151 AD152
	AD241 AD242 AD511 AD512
	AD532 AD662 CC11 CC13
	CC14 CC32 DD11 DD31 EE07